

一次の文章は、昨年の夏の終わりに新聞に掲載されたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

歳時記はよくが一番よく手にしている本かもしれない。調べ事ではなく、気ままにめくっている時にいつも思うのは、日本の自然の多様性と日本人の豊かな自然観だ。たとえば風一つでも、春風／春一番／風薫る／南風／秋風／野分／木枯らし／空っ風……と四季折々の風にそれぞれ名称がついている。こんな国が他にあるだろうか。

日本が熱帯と寒帯の間の温帯にあり、かつ大陸の東側、大洋の西側という位置ゆえの複雑微妙な気候に、自然も一体化して多様性を極めたのだろう。あわせて日本人の感受性も豊かになっていったのではなからうか。

しかしそんな日本の天気が、近年どうもおかしい。今夏など、40度前後の猛暑に加え、豪雨も少雨の地方もあって、異常気象もいいところだ。「暑さ日本一は〇〇」とか、猛暑ビジネスの盛況ぶりといった話題はしばしばテレビのニュースのトップを飾ってきた。それはいいとしても、異常気象とその対策についての情報はどうなんだろう。地球の発熱状態については、高気圧や海水温の情報もさることながら、経済活動とのかわりなど、もっと論じられていいように思える。

文明が進めば人間は自然に手をつけ、経済活動はますます盛んになる。このことは海からの風をさえぎって、湾岸部に林立する大都市の高層ビル群を見れば瞭然だ。

経済成長。何とおおらかな響きをもって聞こえることか。アメリカなども環境より景気の国であるらしい。しかし地球が受け入れられる経済活動の規模は、すでに限度を超えているのではなからうか。それが各国による温暖化対策のそもそもではなかったのか。次世代を見据えた「持続可能な開発」というテーマは今、どうなっているのか。

このあと日本は長い残暑で、秋は惜しむ間もなく去っていく。春も長く残る寒さのせいで、やはり短く感じられる。放送局で働く知り合いの女性が、いみじくも言ったものだ。

「サンダルをぬぐとブーツなんです。」

すでに ア 季は イ 季になりつつあるということか。

(近藤勝重「サンダルからブーツ」による)

問一 ―― 線部1「日本の自然の多様性」をもたらししたのは何だと筆者は考えていますか。問題文中の語句を用いて二十字以内で答えなさい。

問二 ―― 線部2「猛暑ビジネスの盛況ぶり」の具体例を、自分で考えて答えなさい。

問三 ―― 線部3「何とおおらかな響きをもって聞こえることか」とありますが、この表現にはどのような批判がこめられているのですか。説明しなさい。

問四 ア・イに入れるのに最も適当な漢数字を、自分で考えて答えなさい。

問五 ―― 線部「春一番」とありますが、次のア～オの言葉を季節の順に並べかえて、記号で答えなさい。ただし、ア(春一番)が最初にくることとします。

ア 春一番 イ 麦秋 ウ 野分 エ 小春日和 オ 菜種梅雨

問六 ～～線部「トップ」は「一番目」の意味ですが、次の1～5の外來語の意味を、後のア～クから選び、記号で答えなさい。

1 ステップ 2 トリップ 3 ギャップ 4 グリップ 5 スリップ

ア ずべること イ 食い違い ウ 小売店 エ 上がること
オ 包むこと カ 握りの部分 キ 旅行 ク 足の運び

二 次の1ゝ5の（ ）には、例のように五字の「ゝめる」という形の言葉が入ります。それぞれの（ ）に入る言葉を答えなさい。ただし、同じ言葉は一回しか使えないものとします。

例 空らんに答えを（ ） める 「答え」あてはめる

- 1 連休でゆるんだ気分を（ ） める
- 2 口げんかで相手をこてんぱんに（ ） める
- 3 うそを見ぬかれて顔色が（ ） める
- 4 不祥事ふしやうじで学校の評判を（ ） める
- 5 友人にお祝いの手紙を（ ） める

三 次の1ゝ6の俳句の（ ）に入れるのに最も適当なものを、後のアゝ力から選び、記号で答えなさい。

- 1 （ ）飼うベッドの母の目の高さ （南恵子）
- 2 たぶたぶと （ ）のひげの見え隠れかく （池田正子）
- 3 開店に（ ）さばかれ弾む声はじ （吐詩朗）
- 4 横顔にして真顔なる（ ）かな （平井照敏）
- 5 （ ）焼く煙けむりに消防車の来たる （稲畑広太郎）
- 6 太陽に海女の太腕ふでうで （ ）さげ （西東三鬼）
- ア ひらめ イ めだか ウ なまず
- エ さんま オ あわび カ まぐろ

四 A群の（ ）にあてはまる漢字と、B群の（ ）にあてはまる漢字を組み合わせて、熟語を四つ作りなさい。ただし、同じ漢字は一回しか使えないものとします。

A群

- 生き（ ）の目をぬく
- いわしの（ ）も信心から
- （例）したり（顔）で話す
- （ ）の恥はかき捨てはじ
- （ ）り目にたたり目

B群

- 言うはやすく（ ）うはかたし
- 弘法こうぼう（ ）を選ばず
- 破（ ）の勢い
- 腹の（ ）がおさまらない
- （例）下手の（横）好き

〔（例）の答え〕 「顔」＋「横」↓「横顔」

五 次の1ゝ5の――線部は敬語の使い方としておかしな所があります。それぞれ適当な表現に改めなさい。

- 1 先生は「敬語を使うようにしなさい。」と私におっしゃられました。
- 2 料理ができたので、あたたかうちにいただいてください。
- 3 拝見した後は、元の位置におもどください。
- 4 ただ今、父は外出なさつています。
- 5 明日お宅に行つてもよろしいですか。

六 次の1ゝ5の□に適当なひらがなを一字ずつ入れて、文を完成させなさい。

例 この子は生まれつき□ひよわなので、柔道じゆうどうでも習わせようか。

- 1 彼女は□ぼそい声で消え入るように答えた。
- 2 難しい問題をいとも□やすく解いてみせた。
- 3 おじさんはひげもそらず、□くるしいすがたをしている。
- 4 一時間に一本の汽車に乗りおくれそうになったので、駅まで□□走りはしに走った。
- 5 □□あたたかい風が吹いて、今日は気味が悪い天気だ。

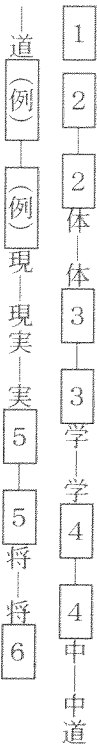
七 次の〔条件〕にしたがって、漢字のしりとりを完成させなさい。

〔条件1〕

1□6□に入る漢字は、「馬」と組み合わせて音読みの熟語が作れます。ただし、「馬」は一字目に用いても二字目に用いてもかまいません。

〔条件2〕

□に入る漢字は読み方を変えてもかまいません。



* （例）には「具」が入る。（馬具↓道具・具現）

受験番号

◎ 解答に字数制限のある場合、句読点などの記号も字数に数えます。

三

1
2
3
4
5
6

四

五

5	4	3	2	1

六

5	4	3	2	1

あたたかい

走り

くるしい

やすく

ぼそい

七

6	1
	2
	3
	4
	5

一

問一	問二	問二	問四	問五	問六
			ア	1	
				ア ↓	
			イ	2	
				↓	
				3	
				↓	
				4	
				↓	
				5	

二

5	4	3	2	1

める

める

める

める

める